



通信

VOL.3

令和元年11月1日

作成：長岡正宏

合気道は 丸く捌いて、三角に入身して、四角に固める。



開祖のレリーフ



鉄筋コンクリートの五階建て



撮影：長岡

メインの三階道場

合気の旅

写真は東京都新宿区若松町にある合気会本部道場である。昭和6年、木造で80畳敷の合気道専門道場を創建され現在まで続いている。当時は「皇武館」と呼ばれていた。今では国内のみならず世界中から多くの人が集まり、共に稽古で汗を流している。

本部道場での思い出は尽きない。若いころ、たくさん汗を流し、色々な技や考え方を吸収していった。当時、まだ開祖を知る人も多かった。現在の私があるのも本部道場での稽古があったからだ。

皆さんも一度は本部道場で稽古をしてもらいたいと願う。

おめでとうございます！



少年部の平田久遠くんが10級を授与された。審査では、とても綺麗な膝行でしたね！
これからは楽しみだ \ (^o^) /



広島工業大学合気道部の吉田君が稽古に来てくれた。これからも、稽古に参加したいとのことだ。頑張ってもらいたい、期待している。



ワンポイント・アドバイス



階段を上る時に足音を立てないようにしてみよう！きっと脚だけの問題ではないことに気づくだろう。全身を使うはずだ。慣れてきたら少し駆け足で上ってみよう。単なる足腰の鍛錬ではなく柔らかい足腰になるだろう。稽古には金属製あるいは木製の音がよくでる階段が適している。

できるようになってきたら下りにも挑戦すると良い。決して頭かない様に注意してもらいたい。(階段稽古は自己責任でお願いします！)

道心探究

『論語』などのいわゆる四書五経の中に『大学』がある。『大学』は、知恵を兼ね備えて世の中に良い影響を及ぼす大人(たいじん)の学を説いている。戦前の小学校には必ず薪を背負い本を読んでいる二宮金次郎の像があった。二宮金次郎が持っている本は『大学』である。

開祖も幼少期に生家近くの地藏寺で四書五経を学ばれた。間違いなく『大学』を学んでいるだろう。北海道開拓時期の開祖の行動は、私利私欲を離れた大人(たいじん)であった。

『大学』に、「物に本末有り。事に終始有り。先後する所を知らば、則ち道に近し」とある。何事も懸命にやるだけでは成果が上がらない。何から取り組めば良いかを心得ていけば大きな成果が上がると説いている。本末転倒では駄目だということでもある。

我々も技のテクニクばかりを稽古するのではなく合気道の本質を学んでいかなければならないと思う。本末転倒の稽古では上達が遅くなるだろう。私自身の経験からも言えることである。

開祖が我々を見守ってくれている



(行事予定)

11月2日(土) 15:00~17:00

合気道広島会演武会 県立体育館武道場

11月24日(日) 9:30~12:00

合気道広島会昇段審査稽古会 県立体育館武道場

～先人の言葉～

合気道を教えているとき、私の方が技は上でも人間的には逆転していることがある。だから大事なことは強い弱い問題じゃない。

市橋紀彦本部師範(合気道マガジンより)

